

平成 30 年度事業計画

現下のエネルギー情勢は、国内では、一部の原子力ユニットの追加再稼働が期待されるものの、今後のエネルギーミックスの行方は依然として不透明な中で、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーが急速に普及し、電力に続いてガスの小売市場も全面自由化された。

また、世界では、景気減速と北米のシェールオイル生産等による石油の供給過剰に起因する原油価格の下落、あるいはデジタル技術を応用したデマンドコントロールへの期待など、エネルギー情勢は、ますますダイナミックな動きを見せている。

以上の認識の下、引き続き関連する情報の収集と発信に努めるとともに、以下の事業を展開していく。

- 重点事業 : 「変革の時代に電気事業が目指すべき道筋」(仮題) と題するシンポジウムを開催する。
- WEC 事業 : アジア地域における新たな調査検討活動として、「再生可能エネルギー大量導入時の課題と対策」を提案国としてリードしていく。
- 国内事業 : 時宜を得たテーマによる「パワートーク」を引き続き開催する。
- 事業運営 : 引き続き経費節減に努めながら会員サービスの維持を図るとともに、移行法人としての円滑・適法な運営につとめる。

1. 普及啓発事業

(1) 機関誌発行事業

- ・機関誌「エネルギーと動力」(年 2 回) を発刊・配布する。
- ・企画審議するための編集委員会(年 2 回) を開催する。

(2) シンポジウム事業

一昨年 10 月のイスタンブール大会において、世界がエネルギーの大転換時代に入り、そのトレンドは、脱炭素化(Decarbonization)、分散化(Decentralization)、デジタル化(Digitalization)の 3 つの D であることを確認した。

一方、我が国では、この 3D に、規制緩和(Deregulation)と人口減少(Depopulation)の 2 つの D を加え、5D の時代に入ったとする専門家もいる。

このような中、電力システム改革の最終ステップとして、2020 年に送配電部門の法的分離を行う我が国の電気事業者には、将来の事業戦略を非連続かつ創造的な発想で構築する必要があるという認識が広がっており、分散電源や電力貯蔵、そしてブロックチェーンなどの革新的デジタル技術への期待とともに、様々な異業種連携の動きも始まっている。

そこで、今回、国内の関係者を招き、下記による公開シンポジウムを開催する。

日時 : 平成 30 年 9 月 6 日 (木) 13 時 30 分～17 時 30 分
*終了後 意見交換会

場所 : 経団連会館

テーマ : 「変革の時代に電気事業が目指すべき道筋」(仮題)

パネリスト候補 : 5 名 (電力会社、メーカー、学識経験者) 調整中

2. WEC 事業

(1) WEC 年間事業活動への参画

① アブダビ大会事前説明会の開催

2019 年 9 月 9 日(月)～12 日(木)、アラブ首長国連邦のアブダビにおいて第 24 回大会が開催される。日本からの多くの参加者を募るため、2019 年 2 月に事前説明会を開催する。

② 執行理事会(World Energy Week)への参加

2018 年 10 月 8 日 (月) ～11 日 (木) に、イタリアのミラノにおいて執行理事会ならびに常設 3 委員会などの関連会議が開催される。日本国内委員会事務局および委員会委員等が参加する。

③ WEC アジア地域会議への参加

2018 年 5 月 31 日 (木) に、アジア地域会議を東京で開催する。今年度は、日本から提案した新たなスタディ「再生エネルギー大量導入時の課題と対策」を提案国としてリードしていく。アジア地域会議は、10 月のミラノでも開催される。

④ アジア地域における WEC 関連活動への参加

2015 年に、韓国国内委員会が始めた国際エネルギーシンポジウムに、引き続き日本からの登壇者を推薦するとともに、アジア地域における活動活性化に向けて開催されてきた北東アジア地域フォーラム(日中韓 3 か国の実務者会議)等に随時参加する。

(2) WEC 委員会への参加

WEC は、現在、**Strategy Review** と称し、ロンドン事務所組織や調査・研究テーマの見直しを行っており、その最終的な姿は、10 月のミラノ執行理事会で承認される予定である。以下は、現時点で継続を確認している旗艦スタディについての記述である。

① 世界のエネルギートリレンマ(World Energy Trilemma)

2008 年、トリレンマ達成に向けた提言を行うとともに、エネルギー・気候変動政策に関する国別ランク付けを行うことを目的に開始。

提言レポートについては、産業界のトップに対し、「政策立案者に求めることは何か」、政策立案者に対し、「産業界に求めることは何か」などをインタビューして、これらを取りまとめてきた。2018年のテーマは、現時点では未定である。

また、一昨年に大幅に改善した国別ランク付け手法については、更なる改良をしていく方向が確認されている。

② 世界のエネルギーシナリオ(World Energy Scenarios)

イスタンブール大会には、3つのシナリオ2060、すなわち「モダンジャズ（市場が主導）」、「未完成シンフォニー（規制と国際協力が主導）」、ならびに「ハードロック（各国がバラバラに行動）」が報告された。

今後は、地域ごとにワークショップや専門家会議を開催し、各地域固有の課題について議論を深め、2019年のアブダビ大会にグローバルシナリオ2060を報告する。

③ 強靱化への道 (Road to Resilience)

イスタンブール大会には、1) エネルギー／水／食糧、2) 異常気象、3) サイバー攻撃、の3つのリスクについて、その頻度や厳しさを推定するとともに、これらへの対応方策および投資促進策について取りまとめ、報告した。

今後は、異常気象に焦点を当てた地域や国レベルのディープダイブ（深堀り：事象発生状況と軽減策や予防策などの調査）を行っていく。

これらのスタディ・グループや関係委員会等に、日本からも多くの委員が引き続き参加し、我が国のプレゼンスを高めていくこととする。

<日本からの参加者>

(敬称略)

- 理事・副会長（アジア太平洋・南アジア地域担当）

東京ガス アドバイザー

村木 茂

- 財務委員会

東京ガス アドバイザー

村木 茂

- スタディ委員会

日本動力協会 事務局長

野田 篤志

- プログラム委員会

関西電力 国際事業本部 国際部長

高野 登志裕

○ スタディ・グループ

- ・世界のエネルギートリレンマ

日本動力協会 特別研究員

村田 肇

- ・世界のエネルギーシナリオ

東京ガス オーストラリア社 社長

田中 崇

東京ガス 海外事業企画部 海外事業支援担当副部長

福島 亮

- ・強靱化への道

東京電力ホールディング 事業開発室長

難波 雅之

東京海上日動リスクコンサルティング

企業財産本部 経営リスク定量化ユニット

高岸万紀子

○ FEL (Future Energy Leaders) -100

日本エネルギー経済研究所 戦略研究ユニット

原子力グループ

下郡 けい

○ WEC アジア地域

- ・再生可能エネルギー大量導入時の課題と対策

(調整中)

(3) 会議の開催

- ・WEC 国内委員会の開催 (日本動力協会定時総会と同時開催)

(4) 海外への情報発信

- ・WEC の World Energy Inside 等へ、日本のエネルギー事情を随時発信

3. 会員サービス事業

(1) 会員講演会およびパワートークの開催

著名人による時宜を得た講演会を4回開催する。

*3回は、「パワートーク (講演後、当協会会長との対談あり)」とする。

会員講演会は、以下のとおり。

演 題 : 「第5次エネルギー基本計画 (案) をどう読むか」

講 師 : 地球環境産業技術研究機構 (RITE) 理事・研究所長 山地憲治氏

日 時 : 平成30年6月14日 (木) 16時~17時 (総会終了後)

場 所 : 経団連会館

(2) ニュースレターの発行

- ・会報「ニュースレター」(隔月、6編)

4. 会議他

(1) 会議の開催

- ・定時総会 (1回: 6月)
- ・理事会 (2回: 5月、3月)
- ・運営評議員会 (1回: 3月)

(2) 委員会の開催

- ・技術委員会 (年3回: 7月、12月、3月)

以上